



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月9日

上場会社名 古河機械金属株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5715 URL <https://www.furukawakk.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中戸川 稔
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 三影 晃 TEL 03-6636-9502
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	156,954	6.3	6,050	5.7	6,887	2.9	4,495	1.1
2022年3月期第3四半期	147,605	28.1	5,721	89.7	6,694	86.9	4,449	△20.0

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 7,169百万円 (25.7%) 2022年3月期第3四半期 5,703百万円 (△47.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	116.98	—
2022年3月期第3四半期	113.86	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	250,749	104,389	40.4
2022年3月期	229,727	100,075	42.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 101,303百万円 2022年3月期 97,253百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2023年3月期	—	0.00	—		
2023年3月期（予想）				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	211,200	6.1	8,000	3.4	8,300	△7.7	5,400	△16.6	141.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	40,445,568株	2022年3月期	40,445,568株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	2,329,458株	2022年3月期	1,621,936株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	38,430,623株	2022年3月期3Q	39,075,545株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
2023年3月期 第3四半期決算短信 補足資料	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

(1) 経営成績に関する説明

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	147,605	156,954	9,348
営業利益(百万円)	5,721	6,050	328
経常利益(百万円)	6,694	6,887	193
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	4,449	4,495	46

当第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から同年12月31日まで)の我が国経済は、ウィズコロナの下、各種政策の効果もあって、景気が緩やかに持ち直しており、企業収益は高水準で推移しました。一方で、世界的な金融引締め等が続く中、海外経済の減速や、既往の円安や資源高による原材料価格の高騰など、下振れリスクが高まっており、不確実性が大きい状況が続いています。

このような経済環境の下、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,569億54百万円(対前年同期比93億48百万円増)、営業利益は、60億50百万円(対前年同期比3億28百万円増)となりました。産業機械部門およびユニック部門は減収減益となりましたが、ロックドリル部門は増収増益となり、機械事業全体では、増収増益となりました。素材事業では、金属部門は増収増益、電子部門は減収増益、化成品部門は増収減益となり、全体では、増収増益となりました。また、不動産事業は、増収増益となりました。営業外収益に為替差益17億36百万円ほかを計上した結果、経常利益は、68億87百万円(対前年同期比1億93百万円増)となりました。特別利益に投資有価証券売却益3億62百万円ほかを計上し、特別損失に古河大阪ビルの解体工事費用について、工事の進捗に対応した費用4億70百万円ほかを計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、44億95百万円(対前年同期比46百万円増)となりました。

各報告セグメントの売上高と営業利益の状況は、以下のとおりです。

〔産業機械〕

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	12,877	11,728	△1,149
営業利益(百万円)	842	363	△479

産業機械部門の売上高は、117億28百万円(対前年同期比11億49百万円減)、営業利益は、3億63百万円(対前年同期比4億79百万円減)となりました。当第3四半期連結会計期間末の受注残高は、橋梁において道路橋、マテリアル機械において砕石プラントなどの受注があったため、前連結会計年度末に比べ増加しました。ポンププラントは増収、マテリアル機械および橋梁は減収となり、大型プロジェクト案件は、中央自動車道新小仏トンネル工事向け密閉式吊下げ型コンベヤ(SICON®)等について出来高に対応した売上高を計上しましたが、減収となりました。

〔ロックドリル〕

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	22,713	27,780	5,067
営業利益(百万円)	628	2,019	1,390

ロックドリル部門の売上高は、277億80百万円(対前年同期比50億67百万円増)、営業利益は、20億19百万円(対前年同期比13億90百万円増)となりました。国内については、油圧ブレーカで大型機種出荷増、トンネルドリルジャンボの高機能機種へのシフト、補用部品の出荷増および特注機の整備台数増などにより、増収増益となりました。海外については、主として、北米における油圧ブレーカ、油圧クローラドリル、補用部品の出荷増に加え、円安による増収効果もあり、増収増益となりました。

〔ユニック〕

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	21,577	20,843	△734
営業利益(百万円)	1,968	1,112	△856

ユニック部門の売上高は、208億43百万円(対前年同期比7億34百万円減)、営業利益は、11億12百万円(対前年同期比8億56百万円減)となりました。国内については、トラックの生産遅延および減産によるクレーン架装の遅れを主因として減収となり、また、鋼材など原材料価格の値上げ等により原価率が悪化して、減益となりました。海外については、欧米におけるミニ・クローラクレーン、東南アジア、オセアニアおよび中近東におけるユニッククレーンの出荷が増加し、円安による増収効果もあり、増収増益となりました。

《機械事業合計》

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	57,169	60,352	3,183
営業利益(百万円)	3,439	3,495	55

産業機械、ロックドリルおよびユニックの機械事業の合計売上高は、603億52百万円(対前年同期比31億83百万円増)、営業利益は、34億95百万円(対前年同期比55百万円増)となりました。

〔金 属〕

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	76,643	80,753	4,109
営業利益(百万円)	819	1,164	345

金属部門の売上高は、807億53百万円(対前年同期比41億9百万円増)、営業利益は、11億64百万円(対前年同期比3億45百万円増)となりました。電気銅の海外相場は、10,247米ドル/トンで始まり、ウクライナ侵攻に伴うロシアへの経済制裁強化により金属の供給不足懸念が強まったことから、4月5日に10,426米ドル/トンまで上昇したものの、主要中央銀行の金融引き締め策が加速したことや、中国のゼロコロナ政策の影響で値を下げる展開となり、7月15日には7,000米ドル/トンまで下落しました。その後は、米中の経済指標が市場予想を上回ったことや、中国の追加景気対策およびゼロコロナ政策の緩和への期待感から、8月には8,000米ドル/トン台まで回復し、その後7,500米ドル~8,500米ドル/トンで推移し、期末には8,387米ドル/トンとなりました。電気銅の販売数量は減少しましたが、電気金の販売数量は増加し、為替相場が円安に振れたこともあり、増収となりました。

〔電 子〕

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	5,346	5,287	△59
営業利益(百万円)	388	430	42

電子部門の売上高は、52億87百万円(対前年同期比59百万円減)、営業利益は、4億30百万円(対前年同期比42百万円増)となりました。高純度金属ヒ素は、国内外ともに主要用途である化合物半導体向けの市場が、足元では在庫調整期に入りましたが、当第3四半期連結累計期間前半は比較的安定した状況であったため、増収となりました。また、窒化アルミセラミックスは、熱対策部品向けや半導体製造装置用部品向けなどの需要が増加し、増収となりました。コイルは、半導体不足などの影響による自動車の減産の影響を受け、減収となりました。

〔化成品〕

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	5,837	6,396	558
営業利益(百万円)	584	414	△169

化成品部門の売上高は、63億96百万円(対前年同期比5億58百万円増)、営業利益は、4億14百万円(対前年同期比1億69百万円減)となりました。売上高については、酸化銅は、パソコン需要が減少し、販売数量が減少したものの、銅価の上昇を主因として販売単価が上昇し、前年同期並みとなりました。また、亜酸化銅は、主要用途である船底塗料の需要が回復したことに加え、銅価の上昇を主因として販売単価が上昇し、増収となりました。一方、営業利益については、原料価格の上昇等により製造コストが増加し、減益となりました。

《素材事業合計》

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	87,828	92,437	4,608
営業利益(百万円)	1,792	2,009	217

金属、電子および化成品の素材事業の合計売上高は、924億37百万円(対前年同期比46億8百万円増)、営業利益は、20億9百万円(対前年同期比2億17百万円増)となりました。

〔不動産〕

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	1,566	1,581	15
営業利益(百万円)	543	707	164

不動産事業の売上高は、15億81百万円(対前年同期比15百万円増)、営業利益は、7億7百万円(対前年同期比1億64百万円増)となりました。主力ビルである室町古河三井ビルディング(商業施設名: COREDO室町2)は、商業施設については、コロナ禍前の水準までの回復は見られないものの、行動制限解除に伴って売上げが増加し、また、商業テナントに対する一部賃料の減免がなくなったため、増収となりました。一方で、賃料収入全体としては、事務所賃料収入の減少などにより、前年同期並みとなりました。

〔その他〕

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	対前年同期増△減
売上高(百万円)	1,041	2,583	1,541
営業利益(百万円)	△9	△101	△92

金属粉体事業、鋳物事業、運輸業等を行っています。売上高は、25億83百万円(対前年同期比15億41百万円増)、営業損失は、1億1百万円(対前年同期比92百万円の損失増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

	前連結会計年度末	当第3四半期連結会計期間末	対前連結会計年度末増△減
総資産(百万円)	229,727	250,749	21,022
負債(百万円)	129,652	146,360	16,707
(うち有利子負債 (百万円))	65,671	74,645	8,974
純資産(百万円)	100,075	104,389	4,314
自己資本比率(%)	42.3	40.4	△1.9

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、2,507億49百万円で、前連結会計年度末に比べ210億22百万円増加しました。これは主として、現金及び預金、商品及び製品、原材料及び貯蔵品ほか流動資産が増加したことによります。有利子負債(借入金)は、746億45百万円となり、前連結会計年度末に比べ89億74百万円増加しました。純資産は、1,043億89百万円で、前連結会計年度末に比べ43億14百万円増加しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

前回(2022年5月12日)発表の業績予想との比較において、売上高および営業利益を上方修正しています。産業機械部門では、大型プロジェクト案件で販売の一部が来期にずれ込むことなどから、減収減益となる見込みですが、ロックドリル部門では、国内の出荷が堅調で増益となる見込みで、機械事業全体では、減収増益となる見込みです。金属部門では、第3四半期連結累計期間までの業績を主因として、増収増益となる見込みで、素材事業全体でも、増収増益となる見込みです。

また、これに伴い、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、それぞれ上方修正しています。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,469	17,707
受取手形、売掛金及び契約資産	28,344	30,711
商品及び製品	17,205	21,106
仕掛品	10,813	12,783
原材料及び貯蔵品	20,818	26,583
その他	4,635	10,155
貸倒引当金	△48	△57
流動資産合計	96,238	118,989
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	24,051	23,127
土地	54,170	54,092
その他(純額)	12,754	12,912
有形固定資産合計	90,976	90,132
無形固定資産	376	331
投資その他の資産		
投資有価証券	35,860	34,237
その他	6,997	7,828
貸倒引当金	△720	△769
投資その他の資産合計	42,136	41,296
固定資産合計	133,489	131,760
資産合計	229,727	250,749

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,916	16,277
電子記録債務	9,381	11,412
短期借入金	13,504	27,953
未払法人税等	1,491	1,106
引当金	142	90
その他	19,423	25,831
流動負債合計	59,859	82,671
固定負債		
長期借入金	52,166	46,692
引当金	75	77
退職給付に係る負債	2,543	2,631
資産除去債務	239	227
その他	14,768	14,060
固定負債合計	69,793	63,688
負債合計	129,652	146,360
純資産の部		
株主資本		
資本金	28,208	28,208
資本剰余金	2	2
利益剰余金	54,557	57,127
自己株式	△2,197	△3,086
株主資本合計	80,570	82,252
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,832	11,188
繰延ヘッジ損益	△292	296
土地再評価差額金	2,602	2,586
為替換算調整勘定	35	2,597
退職給付に係る調整累計額	2,506	2,382
その他の包括利益累計額合計	16,683	19,051
非支配株主持分	2,821	3,085
純資産合計	100,075	104,389
負債純資産合計	229,727	250,749

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年 4月 1日 至 2022年12月31日)
売上高	147,605	156,954
売上原価	128,223	136,045
売上総利益	19,382	20,909
販売費及び一般管理費	13,661	14,859
営業利益	5,721	6,050
営業外収益		
受取配当金	691	784
為替差益	112	1,736
その他	1,506	597
営業外収益合計	2,311	3,118
営業外費用		
休鉱山管理費	616	584
持分法による投資損失	—	786
その他	720	909
営業外費用合計	1,337	2,280
経常利益	6,694	6,887
特別利益		
投資有価証券売却益	74	362
負ののれん発生益	414	—
その他	107	12
特別利益合計	596	374
特別損失		
賃貸ビル解体費用	603	470
子会社整理損	—	357
その他	333	388
特別損失合計	937	1,217
税金等調整前四半期純利益	6,354	6,045
法人税、住民税及び事業税	1,827	2,016
法人税等調整額	△103	△661
法人税等合計	1,724	1,355
四半期純利益	4,630	4,690
非支配株主に帰属する四半期純利益	181	194
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,449	4,495

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年 4月 1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	4,630	4,690
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	842	△643
繰延ヘッジ損益	△409	428
為替換算調整勘定	401	2,302
退職給付に係る調整額	202	△123
持分法適用会社に対する持分相当額	36	515
その他の包括利益合計	1,073	2,479
四半期包括利益	5,703	7,169
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,508	6,879
非支配株主に係る四半期包括利益	194	290

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	12,877	22,713	21,577	76,643	5,346	5,837
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,131	2	65	162	0	41
計	15,009	22,715	21,643	76,806	5,347	5,879
セグメント利益又は損失 (△)	842	628	1,968	819	388	584

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,566	146,564	1,041	147,605	—	147,605
セグメント間の 内部売上高又は振替高	10	2,414	1,214	3,628	△3,628	—
計	1,576	148,978	2,255	151,234	△3,628	147,605
セグメント利益又は損失 (△)	543	5,774	△9	5,765	△43	5,721

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運輸業等を含んでおります。なお、当第3四半期連結会計期間より2021年10月1日付で子会社化した山石金属株による金属粉体事業を含みます。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△43百万円には、セグメント間取引消去32百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△76百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」及び「炭鉱跡資産」関連費用です。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結会計期間の「その他」において、2021年10月1日付で子会社化した山石金属株の株式取得に伴う負ののれん発生益414百万円を特別利益として計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	11,728	27,780	20,843	80,753	5,287	6,396
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,067	2	180	179	—	41
計	13,796	27,783	21,023	80,933	5,287	6,437
セグメント利益又は損失 (△)	363	2,019	1,112	1,164	430	414

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,581	154,371	2,583	156,954	—	156,954
セグメント間の 内部売上高又は振替高	9	2,480	1,375	3,855	△3,855	—
計	1,590	156,852	3,958	160,810	△3,855	156,954
セグメント利益又は損失 (△)	707	6,212	△101	6,110	△60	6,050

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金属粉体事業、鋳物事業、運輸業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△60百万円には、セグメント間取引消去25百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△85百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」及び「炭鉱跡資産」関連費用です。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2023年3月期 第3四半期決算短信 補足資料

2023年2月9日
古河機械金属株式会社

〔売上高〕

(単位：百万円 単位未満切捨て)

	2022年3月期 第3四半期 累計期間	2023年3月期 第3四半期 累計期間	対前年同期増減
機械事業	57,169	60,352	3,183
産業機械部門	12,877	11,728	△1,149
ロックドリル部門	22,713	27,780	5,067
ユニック部門	21,577	20,843	△734
素材事業	87,828	92,437	4,608
金属部門	76,643	80,753	4,109
電子部門	5,346	5,287	△59
化成品部門	5,837	6,396	558
不動産事業	1,566	1,581	15
その他	1,041	2,583	1,541
【合計】	147,605	156,954	9,348

2023年3月期		
前回発表	年度予想	対前年増減
82,100	80,600	3,661
18,600	17,700	△23
35,600	35,000	4,089
27,900	27,900	△405
121,800	125,100	6,936
106,400	109,800	6,804
7,000	6,900	△371
8,400	8,400	503
2,000	2,000	△115
3,600	3,500	1,620
209,500	211,200	12,102

〔営業利益〕

	2022年3月期 第3四半期 累計期間	2023年3月期 第3四半期 累計期間	対前年同期増減
機械事業	3,439	3,495	55
産業機械部門	842	363	△479
ロックドリル部門	628	2,019	1,390
ユニック部門	1,968	1,112	△856
素材事業	1,792	2,009	217
金属部門	819	1,164	345
電子部門	388	430	42
化成品部門	584	414	△169
不動産事業	543	707	164
その他	△9	△101	△92
(計)	5,765	6,110	345
調整額	△43	△60	△16
【合計】	5,721	6,050	328

2023年3月期		
前回発表	年度予想	対前年増減
5,200	5,500	820
1,500	1,300	△96
2,500	2,800	1,682
1,200	1,400	△765
1,300	2,000	△349
500	1,000	59
300	500	△166
500	500	△243
700	800	56
△100	△200	△217
7,100	8,100	310
△100	△100	△45
7,000	8,000	265

〔為替・銅価〕

	2022年3月期 第3四半期 累計期間	2023年3月期 第3四半期 累計期間	対前年同期増減
為替 円/\$	111.1	136.5	25.4
銅価 \$/mt	9,593	8,425	△1,168

2023年3月期		
前回発表	年度予想	対前年増減
137.0	135.6	23.2
8,067	8,419	△1,272

※参考情報（以下の数値は参考値です）

1. 産業機械部門受注残

産業機械については主に受注生産を行っており、当第3四半期会計期間末における受注残を示すと、次のとおりです。

	2022年3月期 第3四半期 会計期間末	2023年3月期 第3四半期 会計期間末	対前年同期増減
受注残	88億円	139億円	50億円

2. 金属部門の金属価格変動影響による損益について

	2022年3月期 第3四半期 累計期間	2023年3月期 第3四半期 累計期間	対前年同期増減
営業利益	8.1億円	11.6億円	3.4億円
内価格影響分	12.3億円	12.2億円	△0.0億円
銅	(10.2億円)	(2.6億円)	(△7.6億円)
金	(1.6億円)	(8.9億円)	(7.3億円)